

論文審査の要旨

報告番号	総研第 706 号	学位申請者	永田 龍世
審査委員	主査	浅川 明弘	学位
	副査	中村 雅之	副査
	副査	花谷 亮典	副査
			博士 (医学)
			下堂 蘭 恵
			原 博満

Anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies in Functional Neurological Symptom Disorder/Conversion Disorder

(機能性神経症状症/転換性障害では抗 ganglionic acetylcholine receptor 抗体の陽性率が高い)

機能性神経症状症/転換性障害 (FNSD/CD) は運動症状や感覚症状を主体とする疾患であるが、DSM-5 の診断基準にもある通り症状を説明できる診察所見、検査所見を得られないことも多く、その病態は解明されていない。一方、近年は免疫と関連する可能性も示唆されている。FNSD/CD は運動症状や感覚症状を呈する疾患であるが、学位申請者らは自験例において自律神経障害を合併している症例を数多く経験した。自己免疫と自律神経障害を結びつける疾患には、自己免疫性自律神経節障害があり、同疾患に関連した抗 gAChR 抗体が知られている。そこで、FNSD/CD と自律神経障害、抗 gAChR 抗体の関連を調べるため、学位申請者らは 59 例の FNSD/CD 患者の臨床症状と抗 gAChR 抗体の陽性率、検査所見について後方視的にまとめた。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) FNSD/CD 患者 59 例のうち、自律神経症状は 52 例 (88.1%) に認めた。
- 2) FNSD/CD 患者 59 例のうち、16 例 (27.1%) で抗 gAChR 抗体が陽性であった。
- 3) 抗 gAChR 抗体の有無で臨床症状を比較した際、自律神経症状の有無に有意差を認めなかった。
- 4) 他の自己抗体の有無についても比較し、抗 gAChR 抗体陽性例では陰性例と比較し有意差を持って抗核抗体の保有率が高かった。

本研究では FNSD/CD 患者の 88.1% に自律神経障害を有しており、27.1% で抗 gAChR 抗体が陽性であった。自律神経症状の有無に有意差はなく、抗 gAChR 抗体が陽性である他の理由があるのではないかと考えた。抗 gAChR 抗体陽性群では抗核抗体の保有率が有意に高く、FNSD/CD の病態に自己免疫が関与している可能性を考えた。抗 gAChR 抗体の関与が疑われたが、機序については不明な点もあり、今後の課題である。

FNSD/CD は運動症状や感覚症状に主眼が置かれているが、本研究では自律神経障害も高率に合併していたことから自律神経障害にも着目すべきであるとともに、抗 gAChR 抗体は通常、健常者からは検出されない抗体であり、何らかの病的意義があると考えられる。本研究により、FNSD/CD における自律神経障害の重要性と抗 gAChR 抗体との関連が示唆され、FNSD/CD の発症機序のひとつに自己免疫が関与している可能性が考えられた。本研究結果の新規性や発展性などから、本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。